

TKC近畿京滋会と、京都・滋賀地域の10金融機関、合わせて120名の参加者のもと、新年交流会が開催されました。金融庁参与、日本動産鑑定会長の森俊彦様を講師にお迎えしての研修会と情報交換会の2部構成で開催され、TKC会員事務所に対する金融機関からの期待の高まりを感じられる会となりました。

## 講演：『地域経済活性化のための金融機関と税理士の連携とは』 ～持続可能なビジネスモデルの構築に向けて～



金融庁参与  
日本動産鑑定会長  
森 俊彦様

金融機関が本来取り組むべきは、銀行法の第1条「国民経済の健全な発展に資することを目的とする」に明記されているように、中小企業は果敢に事業リスクをとっている。そこに伴走し、事業性評価に基づく融資や本業支援をすることで、中小企業の企業価値、つまり、付加価値である営業キャッシュフローを改善し持続的に成長させていくことです。これこそが国民経済の健全な発展に資すると考えています。

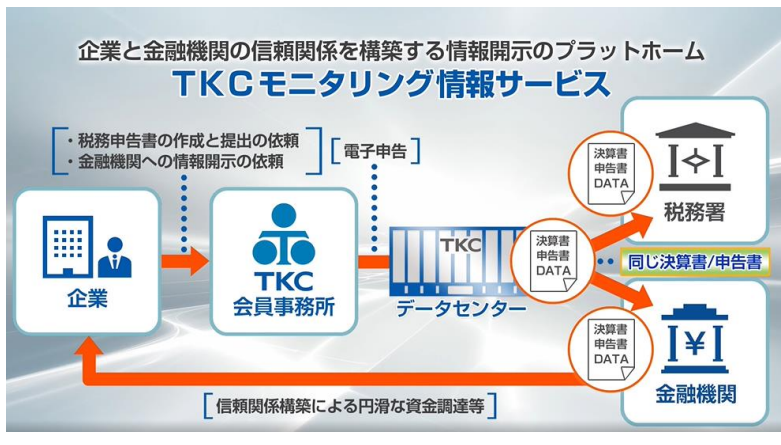
また、経営者に大事なものは①誠実、②やる気、③キラッと光るもの、の3つです。この3つを満たしていれば、金融機関は伴走可能です。たとえ赤字や債務超過であろうと、誠実に財務データを公開し、やる気を持ってイノベーションに挑み、経営者やその事業内容のなかにキラッと光るものが垣間見える。そうした企業であれば、十分、金融機関が支援するに値します。こうした資格を得るには、まず税理士の支援を受けながら決算書の信頼性を確保すること。TKCのFXシリーズは、電子帳簿保存法にも対応しており、トレーサビリティ

が確保されています。ここがスタートラインになります。そして、生産性向上、つまりは営業（将来）キャッシュフローの改善に取り組むこと。そのためには、顧問税理士と手を携えながら、ローカルベンチマークを活用した経営の可視化、経営計画の策定などを通して将来のあるべき姿のシミュレーションを繰り返し、気づきを得ることから始めてください。即実践をお願いします。

### 参加金融機関

三菱UFJ銀行、京都銀行、滋賀銀行、関西みらい銀行、京都中央信用金庫、京都信用金庫、京都北都信用金庫、滋賀中央信用金庫、日本政策金融公庫、商工組合中央金庫、京都信用保証協会

### DVD講座：『TKCシステムで決算書・申告書ができるまで』 ～一気通貫の仕組みが信頼性を高める～



3-2-1 (巡回監査の意義) 巡回監査とは、関与先を毎月及び期末決算時に巡回し、会計資料並びに会計記録の適法性、正確性及び適時性を確保するため、会計事実の真実性、実在性、網羅性を確かめ、かつ指導することである。

## 第2部 情報交換会



佐藤会長



三菱UFJ銀行殿



京都銀行殿



滋賀銀行殿



関西みらい銀行殿



京都中央  
信用金庫殿



京都信用金庫殿



京都北都  
信用金庫殿



滋賀中央  
信用金庫殿



日本政策  
金融公庫殿



商工組合  
中央金庫殿



京都信用  
保証協会殿

○TKCの決算書は「正確だ」と漠然と理解していたものが、記帳適時性証明書(巡回監査)、書面添付で具体的に明らかになりました。これから期待するのは、月次試算表、ローカルベンチマーク(非財務情報)の提供です。

○TKC会員から提供される財務情報は完全に信用していく姿勢で、企業の事業性評価、将来性評価に繋げていきます。

○TKCモニタリング情報サービス利用を前提とした金融商品を提供開始しています。創業間もない企業、赤字決算の企業、場合によっては破綻懸念先の企業を応援しないと、地域金融機関の役割は果たせないと思い、1件1件丁寧に、毎年、先生方と連携して、モニタリングして支援するという取り組みです。

○事業承継に関する相談相手は、圧倒的に税理士先生ですが、金融機関の優先順が低いのは信頼関係が乏しいからと認識しています。企業と向き合うこと、TKC会員と連携することの意義は非常に大きいと思います。

